

## 第2章 第1次計画の評価

第1次計画で掲げた取組については、「計画」「実施」「評価」「公表」というサイクルの下で、その各段階について、基本構想に基づき設置された「札幌市火葬場・墓地のあり方推進協議会」と連携して推進してきました。

以下に、分野別の「主な取組」「成果指標・参考指標の状況」「成果等」についてまとめました。各指標の評価はA：目標を概ね達成・達成見込 B：前進 C：横ばい・後退としています。

### 1 市民の意識醸成

#### 【主な取組・成果等】

##### ① 葬送に対する市民ニーズの把握

###### 【取組】

- ▶ ワークショップ
  - ・「生きがい終活のススメ」
  - ・「葬送ワークショップ」
- ▶ 各種アンケート調査
  - ・インターネット調査
  - ・イベント参加者アンケート等

###### 【成果】

- ▶ 対話型のイベントによる市民の声の収集・深掘りができた
- ▶ 参加者から「大変勉強になった」など高い評価を受けた
- ▶ インターネットアンケートにより市民の葬送についての意識を定量的に確認することができた

###### 【課題】

- ▶ 葬送に関する意識や需要の変化について引き続き把握する必要がある

##### ② 葬送に関する情報提供

###### 【取組】

- ▶ 終活セミナー
- ▶ 葬送・終活シンポジウム
- ▶ 出前講座
- ▶ パネル展
- ▶ X(旧Twitter)
- ▶ ホームページ
- ▶ 啓発動画
- ▶ 広報さっぽろ

###### 【成果】

- ▶ 料金制度の見直しに係る市民議論のほか、終活<sup>3</sup>や葬儀社の選び方など関心の高いテーマ、目に触れる機会の少ない棺や旅立ちの衣装等の展示、斎場見学など、様々な手法や各種媒体による情報提供を行った結果、火葬場・墓地の現況や市の取組に対する市民の関心の高まりが見られた
- ▶ 市民が葬送や終活を主体的に考えるきっかけとなった

###### 【課題】

- ▶ 市民の意識醸成は時間をかけて継続的な取組が必要
- ▶ 市民の求める「信頼性の高い情報」の発信
- ▶ 火葬場・墓地施策への市民理解

3 【終活】人生の最期を念頭において、元気なうちに、葬儀・納骨、生前整理、遺言書など、各人の状況に応じて必要なさまざまな準備や情報収集をすること。基本構想及び本計画では、自分自身のことに限らず家族のことを含めて、特に葬送関係の準備等をすることを表している。

## 【成果目標・参考指標の状況】

	指標	初期値	現在値	目標値	評価
成果指標	葬送に関する行動をしている市民の割合	38.6% (2021年度)	54.5% (2025年度)	50.0%	A
参考指標	X(旧Twitter)フォロワー数	—	20件 (2024年度)	500件	C
	ホームページ閲覧数	3,347件/年 (2020年度)	11,773件/年 (2024年度)	5,000件	A

## 2 多死社会に対応した火葬場

## 【主な取組・成果等】

## ◎里塚斎場の建替・改修手法

## 【取組】

- ▶ 里塚斎場再整備手法の検討
- ▶ 再整備までの混雑緩和策の一つとしてロビーのレイアウト変更の実施

## 【成果】

- ▶ 複数の整備手法案について、諸室構成、建設候補地の状況、事業の競争性、概算費用等の面から比較検討した結果、それぞれのメリット・デメリットを整理することができた。
- ▶ ロビーのテーブルが満席になる時間帯が減少した

## 【課題】

- ▶ 現施設は経年化が進んでいる
- ▶ 構造上の問題を解消する必要がある
- ▶ 再整備に関する理解を得る必要がある

## ◎火葬場の友引開場

## 【取組】

- ▶ 友引開場調査(他都市の先行事例、葬祭事業者へのアンケート等)の実施

## 【成果】

- ▶ アンケートにより葬祭事業者の友引開場への需要意識や対応を確認することができた
- ▶ 必要経費や火葬需要等を推計することができた

## ◎火葬場の予約システムの導入

## 【取組】

- ▶ 火葬場予約システムの導入

## 【成果】

- ▶ 到着順から予約制へ運用を変更したことにより、入場等の待ち時間が低減するなど運営の円滑化が図られた

## ⑥火葬場の運営手法の検討

### 【取組】

- ▶ 山口斎場第2期事業の運営手法の決定・事業者の選定・契約

### 【成果】

- ▶ 第1期事業の評価や、第2期事業のVFM(財政縮減効果)などを検討した結果、第2期事業の事業期間(10年間)、事業方式(PFIのRO方式<sup>4</sup>)を決定した

### 【課題】

- ▶ 第2期事業終了後の設備更新を伴う大規模改修の実施方法と事業方式(PFI、指定管理等)を検討する必要がある

## ⑦火葬場の広域利用についての協議

### 【取組】

- ▶ 連携中枢都市圏の各市町村との情報共有等
- ▶ 広域連携に関する調査研究

### 【成果】

- ▶ 広域利用に関する検討会議において情報共有を行うことで、各市町村の抱える課題を把握することができた
- ▶ 他都市の火葬場やその他の公共施設の広域連携事例を調査し、連携手法について整理することができた

### 【課題】

- ▶ 大規模修繕、災害時の具体的な連携のあり方について協議を進める必要がある

## ⑧火葬場の収入及び施設整備や運用改善に係る費用の見直し

### 【取組】

- ▶ 火葬場使用料の改定(市民有料化、特別控室値下げ)

### 【成果】

- ▶ 適正な負担をしていただくことにより火葬場の運営の安定化を図ることができた

## その他の取組

### 【取組】

- ▶ 残骨灰及び集塵灰の無害化処理に係るスキームの確立及び実施

### 【成果】

- ▶ 市民の安全・安心をより一層確保することができた
- ▶ 残骨灰槽の長寿命化を実現することができた
- ▶ 有価物引取収入を火葬場運営経費に活用することができた

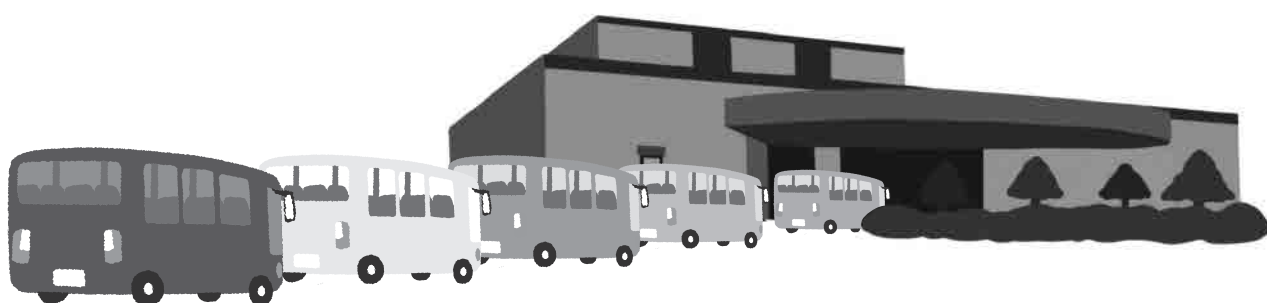
### 【課題】

- ▶ 一度に処理するのが困難な多量の残骨灰を保管している

4 【PFI(RO方式)】PFIとはPrivate Finance Initiativeの略称で、公共施設などの建設、維持管理、運営等を民間事業者の資金や能力を活用して行う手法のこと。RO方式はPFI手法の一つで、既存施設の改修を行い、その後の維持管理・運営も行う方式。ROはRehabilitate Operateの略称。

## 【成果目標・参考指標の状況】

	指標	初期値	現在値	目標値	評価
成果指標	火葬場入場前の車内待ち時間の抑制	64分 (2020年度)	23分 (2024年度)	30分以内	A
参考指標	里塚斎場の整備計画策定	— (2020年度)	検討中 (2024年度)	計画策定	B
	友引開場の実施	— (2020年度)	検討中 (2024年度)	開場	B
	予約システムの導入	— (2020年度)	導入済 (2024年度)	導入	A
	山口斎場の次期運営手法の決定及び事業者の選定・契約	— (2020年度)	運営手法:PFI 事業者:選定中 (2024年度)	選定・契約	B
	(火葬場の広域利用) さっぽろ連携中枢都市圏の各市町村との協議・情報共有の実施	— (2020年度)	実施 (2024年度)	実施	A
	(火葬場の収入・費用) 料金体系の見直し	— (2020年度)	条例改正済 (2024年度)	新料金体系 の施行	A



### 3 少子高齢社会に対応した墓地

#### 【主な取組・成果等】

#### ①市営霊園及び旧設墓地の無縁墓への対応

##### 【取組】

- ▶ 戸籍調査
- ▶ 手続勧奨の通知文送付
- ▶ 連絡を促す看板の設置

##### 【成果】

- ▶ 無縁化が疑われる墓が約21%(2021年度)から約10.2%(2024年度)に減少した

##### 【課題】

- ▶ 無縁化が疑われる墓は今後も発生すると予測されるため継続した対応が必要である
- ▶ 無縁化を未然に防ぐ更なる対応が必要である
- ▶ 無縁墓と判断されるものに係る整理の方向性を検討する必要がある

#### ①市営霊園の改修や機能の統廃合

#### ②市営霊園の運営手法

#### ③合葬墓の運用方法

##### 【取組】

- ▶ 管理事務所の建替を検討
- ▶ 新しい合葬墓の整備を検討
- ▶ 合葬墓の運用方法の検討
- ▶ 施設健全度調査の実施

##### 【成果】

- ▶ 新合葬墓・里塚霊園管理事務所建替に関し、詳細設計に向け、施設規模を整理することができた
- ▶ ライフスタイルの多様化を踏まえた合葬墓の利用条件を整理した
- ▶ 市営霊園の改修箇所の整理を行い、改修にかかる概算費用の算出をすることができた

##### 【課題】

- ▶ 市営霊園の返還区画数が近年急増傾向にあるなど墓地需要の変化の兆候があることを踏まえて、再公募を含めた市営霊園による墓地供給のあり方を検討する必要がある
- ▶ 市営霊園の利便性の一層の向上を図っていく必要がある

#### ④旧設墓地の管理方法

##### 【取組】

- ▶ 案内看板の設置
- ▶ 戸籍調査

##### 【成果】

- ▶ 無縁化が疑われる墓の割合が減少した

##### 【課題】

- ▶ 依然として多数の無縁化が疑われる墓が存在しているため、引き続き対策が必要
- ▶ 未許可墓が存在している
- ▶ 安定的な維持管理が必要である

## ㊦市営霊園の新たな管理料制度

### 【取組】

- ▶ 清掃手数料を見直し、新たな管理料制度を導入
- ▶ 債権管理体制の構築

### 【成果】

- ▶ 適正な負担をしていただくことにより市営霊園の運営の安定化を図ることができた

## ㊧民間墓地・納骨堂に対する指導等

### 【取組】

- ▶ 民間墓地経営者との経営指導会議の実施
- ▶ 経営状況報告を活用した調査審議

### 【成果】

- ▶ それぞれの民間墓地が抱える課題の改善を図ることができた
- ▶ 経営状況報告の内容に疑義のある納骨堂への指導を行うことにより、経営の健全化・安定化を図ることができた

### 【課題】

- ▶ 経営状況報告の内容の疑義が解消されていない納骨堂が存在する

### 【成果目標・参考指標の状況】

	指標	初期値	現在値	目標値	評価
成果指標	無縁墓及び無縁化疑いの墓の割合	21% (2021年度)	10.2% (2024年度)	13%	A
参考指標	改修方針の決定(市営霊園)	— (2021年度)	検討中 (2024年度)	方針決定	B
	運営手法の決定(市営霊園)	— (2021年度)	検討中 (2024年度)	決定	C
	新增設した合葬墓の運用	— (2021年度)	検討中 (2024年度)	新しい運用の決定	B
	旧設墓地の管理料制度導入可否の決定	— (2021年度)	検討中 (2024年度)	決定	C
	市営霊園の新管理料制度の決定	— (2021年度)	決定 (2024年度)	決定	A
	審議会において経営状況を調査審議した民間墓地・納骨堂の数	— (2021年度)	4件 (2024年度)	4件	A

※「改修方針の決定(市営霊園)」「運営手法の決定(市営霊園)」「新增設した合葬墓の運用」「旧設墓地の管理料制度導入可否の決定」については、いずれも現在値は検討中であるが、「改修方針の決定(市営霊園)」と「新增設した合葬墓の運用」については、調査の実施など他の2項目よりも検討が進んでいることから評価をBとした